

10月定例研究会

令和元年10月5日に定例研究会がありました。

テーマは「合成・分解」です。

午後5時から5時30分まで研究授業、6時から研究協議を行いました。

研究授業者: 高橋 敦子(つばき教育研究所スタッフ)

テーマ: 「合成・分解」

学習内容: トレイを用いる合成分解の学習

I、指導経過

1、学習開始

・2013年7月から月2回の指導を行ってきた。

2、学習経過

(1)基礎学習(2013年7月～2015年7月)

①同じの概念形成 ②形の弁別 ③未測定の学習 ④空間概念形成

(2)文字学習(2015年2月～)

①清音 ②濁音 ③半濁音 ④拗音 ⑤長音 ⑥拗長音 ⑦促音

①から⑦まで終了。現在は生活に関係がある単語を学習している。

(3)動詞の概念形成(2017年3月～2018年2月)

(4)文構成の学習(2019年8月～)

①助詞1つを用いた文の構成「を」

・文例「〇〇を食べる。」「〇〇をのむ。」は終了。

(5)カタカナの学習(2018年8月～)

・家庭学習を中心に進めている。

(6)数の学習(2016年3月～現在)

①数字の読み書き

・1～100(2016年3月～2018年3月)

②数える学習(2016年3月～現在)

・3までの数は数詞を声に出さなくて、目だけで数えることができる。

③同じの概念形成～たしかめ版を用いる「同じ」の学習～(2017年5月～2018年3月)

④合成・分解その1～たしかめ板を用いる合成・分解～(2018年3月～2019年1月)

⑤合成・分解その2～トレイを用いる合成・分解～(2019年2月～)

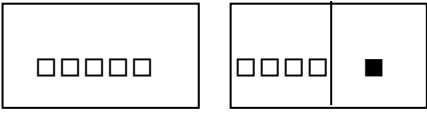
・CはAと□、Cは□とB、□はAとBの形式で2から4までの数は答えがどの位置でも答えることができる。

⑥合成・分解その3～タイルを2つに分ける方法～(2019年2月～)

・「5」が課題

II、本時の指導

1、学習課題・ねらい・教材

学習課題	ねらい	教材
1、トレイを用いる合成・分解 ・「CはAとB」の形式 ・5の組み合わせ (1)「5は4と1」 (2)「5は3と2」	・左側のトレイのタイルの数と右側のトレイのタイルの数を同じにすることができる。 	・トレイ2枚(24cm×16cm)・呈示皿 1枚は真ん中に縦の仕切りがある ・オレンジ色のタイル(1.8cm×1.8cm) ・水色のタイル(1.8cm×1.8cm)
2、合成・分解 ・タイルを2つに分ける方法 (1)5の組み合わせ ①5は4と1 ②5は1と4 (2)6の組み合わせ ①「6は5と1」 ②6は4と2	・呈示したタイルを左右の手で2つに分けて隠し片方の手を開いてそのタイルを見て、もう片方に隠されているタイルの数を答えることができる。	・オレンジ色のタイル(1.8cm×1.8cm)

III、展開

学習項目	学習内容	留意点
1、挨拶	・顔を見合わせて「はじめます」と一緒に言う。	
2、トレイを用いる合成・分解 (1)5は4と1	(1)5は4と1 ①5は4と□ i、トレイを2つ横に並べる ・左側のトレイと右側のトレイを一緒に指さしながら「ない、ない、おなじ」と言う。 ii、左側のトレイにタイル5個置く ・左側のトレイのタイルを指さしながら数えた後、「こっちは5」右側のトレイを指さし「こっちはない」、両方のトレイを一緒に指さしながら「こっちと、こっちはちがう」と言う。 iii、右側のトレイの中の仕切られた左側にタイルを4個置く ・右側トレイの中の仕切られた左側のタイルを指さしながら数えた後、右側のトレイを指さしながら「こっちは4」、左側のトレイを指さしながら「こっちは5」、両方のトレイを一緒に指さしながら、「こっちとこっちはちがう」と言う。 iv、右側の仕切られた右側にタイルを置いて左側のトレイのタイル5個とおなじにする ・右側のトレイの仕切られた右側を指さしながら「ここにタイルを置いて」左側のトレイを指さしながら「こっちの5とおなじにするよ」と言う。 ・右側のトレイの仕切られた左側を指さしながら「4と、あといくつで5とおなじになりますか？」と聞く。 v、「1」と答えた後、左側の仕切られた右側にタイルを1個置く vi、左側のトレイのタイルの数と右側のトレイのタイルの数が「おなじ」の確認 ・右側のトレイの仕切られた左側を指さしながら、先生が置いたタイルの数と子どもが置いたタイルの数を聞く。 ・子どもがそれぞれ「4」と「1」と答えた後、右側のトレイの仕切られた左側と右側を指さしながら一緒に「4と1、全部で5」と言う。左側のトレイを指さしながら	・指さしながら数えなかったら指で数えるように言う。 以下、タイルを数える時は同様に行う。 ・答えが出なかったら見本のタイルを呈示して一緒に分けて答えを出す。

<p>(2) 5は3と2</p>	<p>「こっちも5」左側トレイと右側トレイを指さしながら一緒に「こっちとこっちはおなじ」と言う。</p> <p>②5は□と1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①と同様に行う。 <p>③□は4と1</p> <p>i、トレイを2つ横に並べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・左側のトレイと右側のトレイを一緒に指さしながら「ない、ない、おなじ」と言う。 <p>ii、右側のトレイの仕切りの左側にタイルを4個、右側に1個置く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・右側のトレイの仕切られた左側のタイルの数と右側のタイルの数を聞く。 ・子どもがそれぞれ指さして数え「4」と「1」と答えた後、右側のトレイの仕切られた左側と右側を指さしながら「4と1、全部でいくつ」と聞く。 ・右側のトレイの仕切りの左側のタイルの数「4」と右側のタイルの数「1」を指さしながら一緒に数え、「5」と答える。 <p>iii、左側のトレイにタイルを5個置く</p> <p>iv、左側のトレイのタイルの数と右側のトレイのタイルの数が「おなじ」の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・右側のトレイの仕切られた左側と右側を指さしながら「4と1、全部で5」と言った後、左側のトレイを指さしながら「こっちも5」左側トレイと右側トレイを指さしながら一緒に「こっちとこっちはおなじ」と言う。 <p>(2) 5は3と2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記(1)と同様に行う。 	
	<p>(1) 5は4と1</p> <p>①タイルを5個呈示する。</p> <p>②タイルを指さしながら一緒に数えて「5」と言う。</p> <p>②タイルを右手の下に4個、左手の下に1個に分ける。</p> <p>③右手を開きタイルを見せた後「5は4とあといくつ」と聞く。「1」と答える。</p> <p>④4個のタイルと1個のタイルをすべらせて合わせ「4と1、全部で5」と言う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(3)と(4)は見本のタイルを呈示し一緒に分けて答えを出す。 	<p>・答えが出なかったら見本のタイルを呈示して一緒に分けて答えを出す。</p>
<p>4、挨拶</p>	<p>・「終わります」と一緒に言う。</p>	

IV、研究協議

研究授業終了後、研究協議を行いました。特別支援学校の先生方、特別支援学級の先生方の参加がありました。始めに授業者から補足説明があり、次に質疑応答を行いました。

1、授業者からの補足説明

- ・「数える学習」と「合成・分解」は宿題として家庭でも行ってきた。
- ・対象児の理解力が伸び自発語が増え、会話が増えてきた。

2、質疑応答

(1) 余分量の撤去のタイミングについて

(質問)

- ・(1) 同じ課題で1回目はすぐに撤去し、2回目は答えのタイルを置くのを待って撤去したのは何故か。

(説明)

- ・1回目にタイルを置いた時、目も手も余分量に戻ることがなかったので間違わないと判断したため。

(2) 数え方について

(質問)

- ・数える学習を積む中で、数量によっては指を使わないで目で数えて数詞を答えることができるようになる。
その場合の対応はどうしたらよいのか。

(説明)

- ・基本的な指導は「指さしながら数える」ことであるが、数の学習を積む中で、「3」までは目で見て分かるようになる。その場合は指さして数えなくても良い。

3、その他

- ・机上から視線が離れることがあった、今後視線が離れないで学習ができるようになるといいと思う。
視線が離れたときに、すぐに「見て」「見てるね」のことばかけを行っていたのはよかった。
- ・課題が分かってくると行動が早くなりがちである。
考える力を培うためにもゆっくり行えるように留意するとよいと思う。
- ・宮城理事長からは今後の課題の進め方について以下のアドバイスがありました。
 - ①「5」までの「合成・分解」はできているので、数字へ移行する。
 - ②「6」から「10」までの「合成・分解」の学習はタイルを2つに分ける方法を中心に進める。

- * 宮城理事長はじめ、参加者の方に対象児と授業場面を見てもらうことで、課題の段階が明確になりその段階にあった指導方法を考える良い機会を得ることができました。
10月定例研究会にご参加くださった方々、ありがとうございました。
次回は2020年2月に予定しております。多くの方のご参加をお待ちしています。